

# 消 防



消防操法大会

## — 内 容 —

消 防 組 合  
消 防 本 部 ・ 署  
消 防 団  
火 災 統 計  
予 防 行 政  
救 急 業 務

# 消 防 組 合

大垣市消防本部は、昭和23年9月に設置されて以来、消防力も年々強化されてきたが、昭和45年4月に常備消防を有する大垣市を中心として、周辺の神戸町、輪之内町、安八町、墨俣町及び池田町の1市5町が一体となって、より効果的に消防行政を広域処理するため、一部事務組合「大垣消防組合」が設立された。

平成18年3月27日に大垣市、墨俣町及び上石津町が合併し、大垣消防組合の構成市町は大垣市、神戸町、輪之内町、安八町及び池田町の1市4町となった。また、上石津地域については大垣市が養老町消防本部に委託した。

組合規約により、消防団事務及び水利施設等については、それぞれの市町で執行されている。

常備消防については、平成17年2月に消防本部・中消防署が移転新築したことにより、1本部（3課1室）3署3分署1分駐所の消防体制も確立され、平成22年4月から指令室を指令課に、平成28年4月から消防本部を総務課、予防課、救急救助課及び消防指令課に改め、消防、救急及び救助活動を始め、予防行政にも努力をし、その任務とする住民の生命、身体及び財産を保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除し、これらの災害による被害の軽減を期している。

## 1. 平成28年度消防組合予算

(単位：千円)

	本年度	前年度	比 較	備 考
歳入合計	2,489,000	2,537,000	△ 48,000	
負担金	2,120,000	2,110,000	10,000	
その他	369,000	427,000	△ 58,000	
歳出合計	2,489,000	2,537,000	△ 48,000	
消防費	2,410,970	2,433,970	△ 23,000	
その他	78,030	103,030	△ 25,000	

## 2. 負担状況

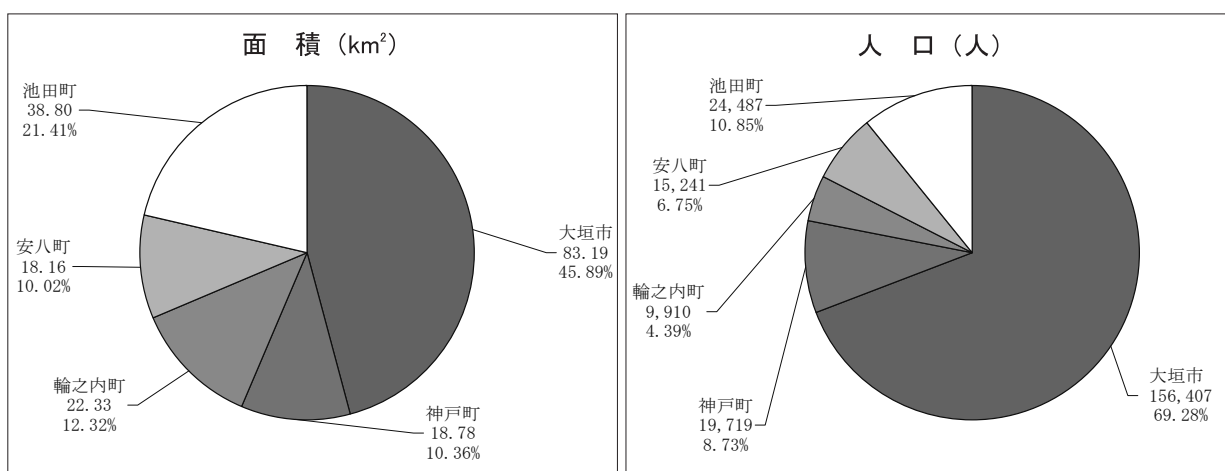
(単位：千円)

市 町	負 担 金	負担金の比率 (%)	特別負担金	合 計
大 垣 市	1,348,450	63.61	0	1,348,450
神 戸 町	215,688	10.17	0	215,688
輪 之 内 町	121,200	5.72	0	121,200
安 八 町	171,868	8.11	0	171,868
池 田 町	262,794	12.39	0	262,794
計	2,120,000	100.00	0	2,120,000

### 3. 市町別面積人口情勢

(平成28.4.1現在)

市町	区分	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	世帯数 (世帯)
大垣市		83.19	156,407	62,355
神戸町		18.78	19,719	6,903
輪之内町		22.33	9,910	3,183
安八町		18.16	15,241	5,189
池田町		38.80	24,487	8,041
合計		181.26	225,764	85,671



# 消防本部・署

## 1. 庁舎の現況

(単位：m<sup>2</sup>)

名称	所在地	建設年月日	構造	建面積	延面積
消防本部 中消防署	大垣市外野 3-20-2	平 16. 10.31	鉄筋コンクリート造3階建 (1階中消防署、2、3階本部)	2,204.3	4,419.2
分駐所	大垣市丸の内 2-28	昭 32. 9.11	鉄筋コンクリート造3階建 (1階の一部を借用)	466.5	414.5 (借用部分)
東分署	安八郡安八町西結 2778-1	昭 46. 3.28	鉄骨造平屋建	472.0	472.0
南分署	大垣市横曽根 4-35	昭 47. 3.27	鉄骨造平屋建	387.9	387.9
北消防署	大垣市中川町 4-173-1	昭 46. 6.22	鉄骨造平屋建	563.6	563.6
赤坂分署	大垣市昼飯町 108	昭 42.12.10	鉄筋コンクリート造 一部木造2階建	240.5	449.4
北部消防署	揖斐郡池田町八幡 2675	昭 46. 3.25	鉄骨造平屋建	430.0	430.0

## 2. 職員数

(単位：人)

区分	階							消防士	計
	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長		
消防本部	1	2	3	5	19	5	1	16	52
消防署	0	0	10	22	56	18	10	65	181
計	1	2	13	27	75	23	11	81	233

(1) 消防本部 52人

消防長 1人 総務課 8人 予防課 10人 救急救助課 3人 消防指令課 20人  
県消防学校派遣 1人 県防災航空隊派遣 1人 県消防学校初任教育入校 8人

(2) 消防署 181人

中消防署 38人 分駐所 20人 東分署 20人 南分署 20人 北消防署 32人  
赤坂分署 19人 北部消防署 32人

区分	人員	配置車輛	小計
消防本部	52	指1 査1 広1 防1 公1 支1 水1 連1 資1	9
中消防署	38	指1 化1 普1 梯1 助1 器1 救2(2) 広1	9
分駐所	20	普2 救1(1) 査1	4
東分署	20	水1 普1 広1 救1(1)	4
南分署	20	水1 水槽1 普1 広1 救1(1)	5
北消防署	32	指1 普2 化1 屈1 広1 救2(1)	8
赤坂分署	19	水1 普1 広1 救1(1)	4
北部消防署	32	指1 水1 普2 助1 広1 救1(1)	7
合計	233人	指4 水5 普10 化2 水槽1 梯1 屈1 助2 器1 広7 救9(8) 査2 防1 公1 支1 連1 資1	50台

指：指揮車 水：水槽付消防ポンプ車 普：消防ポンプ車 化：化学消防ポンプ車 水槽：小型動力ポンプ付水槽車 梯：はしご車 屈：屈折はしご車 助：救助工作車 器：器材運搬車 広：防火広報車 救：救急車（うち高規格車） 査：査察車 防：防災指導車 公：公用車 支：支援車 連：連絡車 資：資材搬送車

### 3. 消防車等保有台数及び経過年数

(単位：台)

区分 年数	指揮車	水槽付消防ポンプ車	消防ポンプ車	化学消防ポンプ車	小型動力ポンプ付水槽車	はしご車	屈折はしご車	救助工作車	支援車	器材運搬車	防火広報車	救急車	査察車	防災指導車	公用車	連絡車	資材搬送車	計
1年未満		1	2	1								1	1					6
1年以上 5年未満		1	1	1				1			1	3	1					9
5年以上 10年未満	3	1	2						1	1	3	4		1	1		1	18
10年以上 15年未満	1	1	2								3	1				1		9
15年以上		1	3		1	1	1	1										8
計	4	5	10	2	1	1	1	2	1	1	7	9	2	1	1	1	1	50

ポンプを装備する消防車は、水槽付消防ポンプ自動車、消防ポンプ車、化学車、水槽車、はしご車及び屈折はしご車で、管内の署所に配備しているほか、救助工作車、支援車などの特殊車両及び救急車などを有し、各種災害に出動している。

### 4. 特殊勤務手当

消防職員手当 給料月額の3%

機関員手当 (正) 月700円 (副) 月500円

救急出動手当 1回 救急救命士 510円 その他の隊員 150円 (不搬送は除く)

# 消 防 団

本市消防団は、1本部 25分団で定数 750 人（現員 699 人 内機能別団員 64 人）の団員をもって組織され、各分団管内の警戒及び火災の予防、鎮圧に寄与している。

## 1. 消防団各分団の名称・所在地・人員・保有車両

名称	区分	所在地	定員 (人)	現員 (人)	消防 ポンプ車 (台)	小型動力 ポンプ付 積載車 (台)	小型動力 ポンプ (台)	耐震用 ミニポン プ (台)	その他
団本部		丸の内 2	28	32	1		1		6
興文分団		室町 1	25	12	1	1	1	1	
東	〃	岐阜町	25	15	1	1	1	1	
西	〃	南若森町	25	26	1	1	1	1	
南	〃	南頬町 4	25	17	1	1	1	1	
北	〃	林町 5	25	15	1	1	1	1	
日新	〃	入方 2	30	35	1	1	1	1	
安井	〃	安井町 2	30	27	1	1	1	1	
宇留生	〃	荒尾町	30	25	1	1	1	1	
静里	〃	久徳町	30	38	1	1	1	1	
綾里	〃	綾野 1	30	33	1	1	1	1	
洲本	〃	島里 1	30	27	1	1	1	1	
浅草	〃	横曾根 4	30	26	1	1	1	1	
川並	〃	古宮町	30	36	1	1	1	1	
中川	〃	領家町 1	30	16	1	1	1	1	
和合	〃	開発町 5	30	36	1	1	1	1	
三城	〃	中ノ江 1	30	33	1	1	1	1	
荒崎	〃	長松町	30	33	1	1	1	1	
赤坂	〃	赤坂町	25	18	1	1	1	1	
青墓	〃	青墓町 1	25	26	1	1	1	1	
牧田	〃	上石津町牧田	37	37	1	1	1		
一之瀬	〃	〃 一之瀬	15	15	1	1	1		
多良	〃	〃 上原	37	37	1	1	1		
時	〃	〃 下山	24	24	1	1	1		
墨俣東	〃	墨俣町上宿・下宿	40	28	1	1	1		
墨俣西	〃	〃 墨俣	34	32	1	1	1		
計			750	699	26	25	26	19	6

## 2. 消防車等保有台数及び経過年数

(単位：台)

年数 \ 種類	消防ポンプ車	小型動力ポンプ付積載車	小型動力ポンプ	耐震用ミニポンプ	その他	計
1年未満	2	4				6
1年以上～5年未満	6	6	9			21
5年以上～10年未満	10	3	17		3	33
10年以上～15年未満	5	4			2	11
15年以上	3	8		19	1	31
計	26	25	26	19	6	102

## 3. 団員の定員及び現員

(単位：人)

区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
定員	1	11	37	31	70	113	487	750
現員	1	11	37	31	70	116	433	699

## 4. 団員の確保

団員の補充、確保については、それぞれの自治会、消防後援会等を通じその確保に努めている。近年、団員のサラリーマン化、さらに住民の意識の変化により団員確保に困難を極めているため、昼間の災害に備えるため機能別団員を導入している。

## 5. 団員報酬及び出動手当

区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
団員報酬(年額)	82,500円	69,000円	50,500円	45,500円	38,000円	38,000円	37,500円
機関員報酬	年額1人 1,500円加算						
ラッパ手報酬	年額1人 500円加算						
出動手当	火災・訓練・演習・警戒出動に対し1回 1,100円						

※ただし、機能別団員の報酬は年額10,000円

## 6. 消防団運営費の支給

区 分	支 給 額
消防団運営費	6,654,000円(支給総額：1本部 25分団)
ポンプ消防車燃料費	90,000円(年額1分団1台)
小型動力ポンプ付積載車燃料費	35,000円(年額1分団1台)
被服費	4,500円(年額1人)
県消防操法大会出場分団訓練補助	500,000円(市消防操法大会優勝分団)

# 火 災 統 計

## 1. 最近3か年間の火災発生状況

	火災件数 (件)	焼損棟数 (棟)	り災世帯数 (世帯)	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	損害額(千円)
25	81(57)	62(40)	45(26)	1,898( 512)	126,264( 46,613)
26	82(58)	52(45)	31(29)	1,249(1,240)	103,385(101,243)
27	83(59)	49(35)	23(19)	1,089( 714)	169,745(136,920)
前年比較	+1(+1)	-3(-10)	-8(-10)	-160( -526)	66,360(+35,677)

( ) 内は、うち大垣市

## 2. 出火原因別件数・損害額 (平成27年)

出火原因別	件数(件)	損害額(千円)
放火(疑い含む)	7( 7)	30( 30)
こ ん ろ	7( 6)	270( 256)
火 入 れ	5( 4)	13( 13)
配 線 器 具	5( 4)	673( 508)
そ の 他	48(31)	89,351( 59,237)
不 明	11( 7)	79,408( 76,876)
合 計	83(59)	169,745(136,920)

( ) 内は、うち大垣市

## 3. 水利施設の状況 (公設)

種 別	消火栓 毎分1,000ℓ/min 未滿も含む	防火水槽 40 m <sup>3</sup> 以上 100 m <sup>3</sup> 未滿	井 戸 1,000ℓ/min 以上	井 戸 1,000ℓ/min 以下	プール	計
大 垣 市	2,968	328(113)	318	50	29	3,693
神 戸 町	937	4( 0)	198	5	6	1,150
輪之内町	516	35( 3)			4	555
安 八 町	354	87( 1)	105	6	5	557
池 田 町	1,239	160( 18)	4		6	1,409
計	6,014	614(135)	625	61	50	7,364

( ) 内は、うち耐震性貯水槽



4. 過去10年間の主な火災発生状況

区分 年別	月 日	出火箇所	天候	風向	風速	温度	湿度	焼損面積 (㎡)	損害額(千円)	死傷者数
18	1月20日(金)	車庫	曇	北北西	3	1	58	106	12,819	死1
	2月5日(日)	廊下(専用住宅)	雪	無風	-	-4	96	87	9,634	死1・傷1
	2月14日(火)	車両	晴	南南西	1	1	88	-	250	死1
	5月12日(金)	工場	曇	南	3	18	68	-	-	死1・傷1
	10月16日(月)	長屋住宅	晴	西北西	5	17	81	140	2,887	死1
19	該当する火災の発生はありません									
20	5月23日(金)	居室(専用住宅)	晴	南南東	6	27	51	178	8,619	死1
	8月3日(日)	居室(専用住宅)	晴	西	1	31	70	-	3	死1
	11月7日(金)	居室(専用住宅)	雨	北北西	1	14	96	234	4,839	死2
	11月21日(土)	倉庫	晴	北北西	1	9	74	320	85,142	
	2月10日(水)	居室(専用住宅)	曇	北北西	1	10	98	235	12,539	死1
22	2月26日(金)	居室(長屋住宅)	雨	北	1	14	98	84	4,996	死1
	4月17日(土)	居室(長屋住宅)	晴	西北西	4	9	72	209	5,780	死1
	6月18日(金)	居室(専用住宅)	雨	無風	-	21	80	66	4,476	死1
	12月27日(月)	居室(専用住宅)	晴	無風	-	-1	73	297	5,750	死1
	1月17日(月)	居室(併用住宅)	雪	西北西	4	2	90	756	14,346	死1
23	3月10日(木)	居室(長屋住宅)	晴	西	4	5	75	40	578	死1
	7月31日(日)	工場	晴	南南西	1	25	86	412	66,212	
	12月22日(木)	食事室(専用住宅)	晴	東	1	9	65	111	15,254	死2
	2月22日(水)	居室(専用住宅)	曇	南南東	3	13	40	125	13,568	死1
	12月2日(日)	店舗(台所)	曇	西北西	3	6	52	224	4,972	死1
25	該当する火災の発生はありません									
26	7月12日(土)	寝室(専用住宅)	晴	西北西	1	24	70	206	11,553	死2
	10月7日(水)	倉庫	晴	西	5	23	50	289	73,324	
	11月22日(日)	河川敷	曇	北西	1	14	89	-	-	死1

(注) 死者の発生した火災または、損害額5,000万円以上の火災を掲げたものです。

# 予 防 行 政

予防行政は、昭和 23 年に自治体消防発足以来、大規模火災の発生及び社会の変革に伴う幾多の法律等の改正により住民の安全確保に大きな役割を果たしてきた。

しかしながら、区域には工場等企業体の進出によって、火災等の災害危険も増大してきているといえる。

このため、大垣消防組合では、消防職員によって管内の防火対象物（工場、病院、学校、デパート等）8,374 対象（市内 6,217）や危険物施設 1,223 対象（市内 765）の合計 9,597 対象の防火査察を年間計画に基づき実施して出火危険の排除、火災等災害発生時の人命危険及び物的被害の極限防止に努力をしている。一方、各対象物関係者に対しても自主防火管理の徹底と自衛消防力の育成、強化について指導を行っている。また、住宅火災による高齢者の死者が増加傾向であり、今後高齢化社会を迎えるにあたって、住宅用火災警報器が設置義務化されたため、その啓発に努めている。

さらに日常生活の拠点である住宅、アパート等に対する防火体制の充足には、各地域の消防団等の協力をもとに防火指導を進め、特に女性を対象とした自主防火組織体（女性防火クラブ）づくりを進めて、市民の防火意識の普及と初期消火技術等の向上を図るとともに、小學校生徒による少年消防クラブ、幼稚園、保育園児による幼年消防クラブの育成、防火教育推進、高齢化社会に対応した防火講話や福祉消防施策の推進等、幅広い火災予防活動を進めている。

## <民間消防クラブの結成状況>

	組 織 名	ク ラ ブ 数(支部数)	人 員 数(人)
大 垣 市 (上石津地域を含む)	女 性 防 火 ク ラ ブ	16(39)	4,003
	少 年 消 防 ク ラ ブ	22	3,488
	幼 年 消 防 ク ラ ブ	45	5,085
組 合 管 内	女 性 防 火 ク ラ ブ	20	4,553
	少 年 消 防 ク ラ ブ	39	5,014
	幼 年 消 防 ク ラ ブ	61	6,605

このほか、春秋の火災予防運動、6月の第2週は危険物安全週間、毎月8日市民防火の日、9月1日の防災の日、1月26日の文化財防火デー等には、それぞれ対象を重点として防火、防災関連行事の展開等を進めて市、住民の防火体制の一層の普及をはじめ、地震・水害等被害の軽減に適切に対応でき、災害に強く、また無災害を目指して予防行政を進めている。

# 救 急 業 務

大垣市の救急業務は、昭和 35 年 12 月、大垣ロータリークラブから救急車の寄贈を受けたのを機に業務が開始され現在に至っている。

この間、関係法規の改正が幾度も繰り返され、平成 3 年 5 月には救急救命士法が制定された。

平成 5 年 4 月、大垣消防組合にも救急救命士が誕生し、翌 6 年 2 月に高規格救急車を導入した。

現在、救急救命士 49 人、高規格救急車 8 台が導入され、高度な救急業務が本格的に運用され、救命率の向上が期待されるところである。また、平成 16 年 7 月から市民も自動体外式除細動器（AED）を使用することが可能になり、更に応急手当の重要性も増している。

## 1. 出動回数等（平成 27 年）

区分		月分												合計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
出動件数	組合管内	892	754	813	739	796	724	853	836	768	807	790	875	9,647
	大垣市	651	545	577	561	581	520	619	611	548	585	561	643	7,002
搬送人員	組合管内	847	720	772	706	763	699	818	793	743	764	765	837	9,227
	大垣市	614	524	545	539	554	502	583	578	533	548	540	609	6,669

## 2. 過去 3 か年間の救急実績

区 分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計	
出 場 件 数	25	組合管内	53	0	6	1,177	80	101	1,108	32	76	6,199	475	9,307
		大垣市	30	0	5	836	47	80	842	29	51	4,595	367	6,882
	26	組合管内	53	0	1	1,109	103	85	1,214	34	72	6,023	544	9,238
		大垣市	41	0	1	793	66	68	929	23	44	4,439	415	6,819
	27	組合管内	54	1	3	1,151	106	74	1,194	23	76	6,296	669	9,647
		大垣市	38	0	1	800	68	51	883	16	56	4,551	538	7,002
搬 送 人 員	25	組合管内	18	0	4	1,329	78	106	1,077	28	57	5,951	429	9,077
		大垣市	13	0	3	936	45	83	815	27	42	4,407	336	6,707
	26	組合管内	7	0	0	1,276	102	91	1,185	34	52	5,776	467	8,990
		大垣市	7	0	0	881	66	74	904	24	31	4,250	356	6,593
	27	組合管内	11	1	2	1,273	106	77	1,154	21	57	6,014	511	9,227
		大垣市	7	0	1	885	68	53	855	15	42	4,340	403	6,669